

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

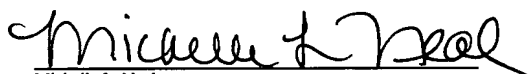
Group }
Art Unit: Unknown }
Attorney }
Docket No.: SHC0162 }
Applicant: Yoshitaka Mishima }
Invention: DISPOSABLE UNDERGARMENT }
Serial No: Unknown }
Filed: Herewith }
Examiner: Unknown }

Certificate Under 37 C.F.R. 1.10

"EXPRESS MAIL" MAILING LABEL NUMBER
EL731285205US

DATE OF DEPOSIT DECEMBER 6, 2001
I HEREBY CERTIFY THAT THIS PAPER OR FEE IS BEING
DEPOSITED WITH THE UNITED STATES POSTAL SER-
VICE "EXPRESS MAIL POST OFFICE TO ADDRESSEE"
SERVICE UNDER 37 C.F.R. 1.10 ON THE DATE
INDICATED ABOVE AND IS ADDRESSED TO THE ASSIS-
TANT COMMISSIONER FOR PATENTS WASHINGTON, DC
20231.

on DECEMBER 6, 2001


Michelle L. Neal



*L. Par 16
2-2-02
2 / priority papers*

CLAIM FOR PRIORITY

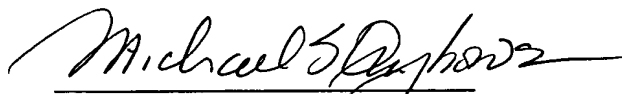
Box Patent Application
Assistant Commissioner for Patents
Washington, DC 20231

Sir:

Applicants hereby claim the priority of Japanese Patent Application Serial No. 2000-371922 filed December 6, 2000, under the provisions of 35 U.S.C. §119.

A certified copy of the priority document is enclosed herewith.

Respectfully submitted,


Michael S. Gzybowski
Registration No.: 32,816
Attorney for Applicant

MSG/mln/210370
BAKER & DANIELS
111 EAST WAYNE STREET, SUITE 800
FORT WAYNE, IN 46802
TELEPHONE: 219-424-8000
FACSIMILE: 219-460-1700

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年12月 6日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-371922

出 願 人

Applicant(s):

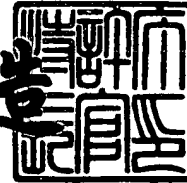
ユニ・チャーム株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2001年11月 9日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3098816

【書類名】 特許願

【整理番号】 SL12P134

【提出日】 平成12年12月 6日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 A41B 13/15
A61F 13/00

【発明の名称】 使い捨て着用物品

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531-7 ユニ・
チャーム株式会社テクニカルセンター内

【氏名】 三嶋 祥宜

【特許出願人】

【識別番号】 000115108

【氏名又は名称】 ユニ・チャーム株式会社

【代表者】 高原 慶一郎

【代理人】

【識別番号】 100066267

【弁理士】

【氏名又は名称】 白浜 吉治

【電話番号】 03(3592)0171

【選任した代理人】

【識別番号】 100108442

【弁理士】

【氏名又は名称】 小林 義孝

【電話番号】 03(3592)0171

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006264

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9904036

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 使い捨て着用物品

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 横方向へ延びる両端縁部および前後方向へ延びる両側縁部を画成する不透液性ベースシートと、前記ベースシートに取り付けられた吸液性パネルとから構成され、前記パネルが位置する肌当接面と、前記肌当接面の反対側に位置する肌非当接面とを有する使い捨て着用物品において、

前記前後方向へ伸縮可能かつ実質的に不透液性の肌接触シートが、前記物品の肌当接面に前記前後方向へ伸長状態で取り付けられて前記パネルを被覆し、前記肌接触シートが、前記両端縁部に固着された固定面域と、前記固定面域の間に位置して前記物品に非固着かつ前記物品が肌当接面を内側にして前記前後方向へ湾曲したときに前記パネルの上方へ遊離可能な自由面域とを有し、前記物品の肌当接面には、前記肌接触シートの非存在領域が形成され、前記非存在領域では、前記パネルを含む前記肌当接面が部分的に露出していることを特徴とする前記物品。

【請求項 2】 前記肌接触シートが、前記横方向へ互いに離間対向して前記両側縁部を前記前後方向へ延びる一对の帯片から形成され、それら肌接触シートの間に前記パネルを含む前記肌当接面が露出している請求項 1 記載の物品。

【請求項 3】 前記横方向へ互いに離間対向して前記両側縁部を前記前後方向へ延びる実質的に不透液性的一对の防漏カフが、前記ベースシートと前記肌接触シートとの間に介在し、前記物品の肌当接面に前記前後方向へ伸長状態で取り付けられ、前記防漏カフが、前記両側縁部に固着されて前記前後方向へ延びる固定縁部と、前記前後方向へ伸縮可能であって前記肌当接面から上方へ起立性向を有する自由縁部と、前記肌当接面に倒伏された状態で前記両端縁部に固着された固定両端部とを備え、前記肌接触シートの自由面域が、前記防漏カフの自由縁部の上方へ遊離可能である請求項 1 または請求項 2 に記載の物品。

【請求項 4】 前記肌接触シートが、弾性伸縮性を有する繊維不織布である請求項 1 ないし請求項 3 いずれかに記載の物品。

【請求項 5】 前記肌接触シートが、非伸縮性繊維不織布であり、前記非伸

縮性繊維不織布に弾性伸縮性を有する弾性部材が前記前後方向へ伸長状態で取り付けられ、前記肌接触シートに前記前後方向への伸縮性が付与されている請求項 1 ないし請求項 3 いずれかに記載の物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、排泄物を吸収、保持する使い捨て着用物品に関する。

【0002】

【従来の技術】

実開平 4 - 1 5 9 2 1 号公報は、透液性トップシートと不透液性ベースシートとの間に吸液性パネルが介在し、開孔面積が 2 mm² ~ 1 0 0 mm² の多数の開孔を有する非伸縮性の有孔シートが取り付けられた使い捨ておむつを開示している。このおむつには、その厚み方向へ凹む便収納部が画成されている。有孔シートは、おむつの前後方向長さよりも短いもので、前後端部がおむつの両端縁部に固着されてトップシートを被覆している。このおむつでは、おむつの両端縁部がトップシートの上方へ向かって延び、有孔シートの前後方向中央部がトップシートの上方へ離間してトップシートと有孔シートとの間に空間が形成されている。

【0003】

このおむつでは、軟便が有孔シートの開孔を通過して収納部に納まり、有孔シートにわずかに残留する軟便が着用者の肌に付着するだけなので、軟便の付着による肌のかぶれを防止することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

前記有孔シートは、尿や軟便等の排泄物が通過可能な多数の開孔を有するので、有孔シートとトップシートとが接触すると、トップシート上に残留するそれら排泄物が有孔シートの開孔を通過して逆戻りしてしまう。このおむつでは、有孔シートが前後方向へ弾性伸縮性を有するものではないので、おむつがトップシートを内側にして前後方向へ湾曲したときに、有孔シートの張力によってその前後方向中央部がトップシートの上方へ遊離することはなく、前後方向中央部が着用者

の股間部に密着することもない。このおむつでは、その着用時に、有孔シートの緊張が緩み、撓んだ有孔シートの前後方向中央部がトップシートに接触するので、有孔シートを逆戻りした前記排泄物が着用者の肌へ付着してしまう場合がある。

【0005】

本発明の課題は、着用時に着用者の股間部に安定して密着する肌接触シートを備え、肌接触シートによって肌当接面に残留する尿や軟便の着用者の肌への付着を防ぐことができる使い捨て着用物品を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

前記課題を解決するための本発明の前提は、横方向へ延びる両端縁部および前後方向へ延びる両側縁部を画成する不透液性ベースシートと、前記ベースシートに取り付けられた吸液性パネルとから構成され、前記パネルが位置する肌当接面と、前記肌当接面の反対側に位置する肌非当接面とを有する使い捨て着用物品である。

【0007】

かかる前提において、本発明の特徴は、前記前後方向へ伸縮可能かつ実質的に不透液性の肌接触シートが、前記物品の肌当接面に前記前後方向へ伸長状態に取り付けられて前記パネルを被覆し、前記肌接触シートが、前記両端縁部に固着された固定面域と、前記固定面域の間に位置して前記物品に非固着かつ前記物品が肌当接面を内側にして前記前後方向へ湾曲したときに前記パネルの上方へ遊離可能な自由面域とを有し、前記物品の肌当接面には、前記肌接触シートの非存在領域が形成され、前記非存在領域では、前記パネルを含む前記肌当接面が部分的に露出していることにある。

【0008】

本発明の実施の態様の一例としては、前記肌接触シートが、前記横方向へ互いに離間対向して前記両側縁部を前記前後方向へ延びる一対の帯片から形成され、それら肌接触シートの上に前記パネルを含む前記肌当接面が露出している。

【0009】

本発明の実施の態様の他の一例としては、前記横方向へ互いに離間対向して前記両側縁部を前記前後方向へ延びる実質的に不透液性の一对の防漏カフが、前記ベースシートと前記肌接触シートとの間に介在し、前記物品の肌当接面に前記前後方向へ伸長状態に取り付けられ、前記防漏カフが、前記両側縁部に固着されて前記前後方向へ延びる固定縁部と、前記前後方向へ伸縮可能であって前記肌当接面から上方へ起立性向を有する自由縁部と、前記肌当接面に倒伏された状態で前記両端縁部に固着された固定両端部とを備え、前記肌接触シートの自由面域が、前記防漏カフの自由縁部の上方へ遊離可能である。

【 0 0 1 0 】

本発明の実施の態様の他の一例としては、前記肌接触シートが、弾性伸縮性を有する繊維不織布である。

【 0 0 1 1 】

本発明の実施の態様の他の一例としては、前記肌接触シートが、非伸縮性繊維不織布であり、前記非伸縮性繊維不織布に弾性伸縮性を有する弾性部材が前記前後方向へ伸長状態に取り付けられ、前記肌接触シートに前記前後方向への伸縮性が付与されている。

【 0 0 1 2 】

【発明の実施の形態】

添付の図面を参照し、本発明にかかる使い捨て着用物品の詳細を開放型のおむつを例として説明すると、以下のとおりである。

【 0 0 1 3 】

図 1, 2 は、肌当接面 1 a の側から示すおむつ 1 A の部分破断斜視図と、前後胴周り域 2 0, 2 2 を連結した着用状態で示すおむつ 1 A の部分破断斜視図とであり、図 3, 4 は、図 1 の A - A 線断面図と、図 1 の B - B 線端面図とである。図 1 では、前後方向を矢印 Y で示し、横方向を矢印 X で示す。なお、おむつ 1 A の肌当接面 1 a とは、おむつ 1 A を着用した着用者の肌に対向する面をいい、おむつ 1 A の肌非当接面 1 b とは、着用者の肌に非対向の面をいう。

【 0 0 1 4 】

おむつ 1 A は、透液性トップシート 2 と、不透液性ベースシート 3 と、トップ

シート2とベースシート3との間に介在し、全体がティッシュペーパー（図示せず）に被覆、接合された吸液性パネル4とから構成されている。パネル4は、ティッシュペーパーを介してトップシート2とベースシート3とに接合されている。おむつ1Aは、それらシート2、3とパネル4との他に、実質的に不透液性の肌接触シート5と、実質的に不透液性の防漏カフ6とを有する。

【0015】

おむつ1Aは、前後方向に前胴周り域20および後胴周り域22と、前後胴周り域20、22の間に位置する股下域21とを有し、横方向へ延びる両端縁部1cと、前後方向へ延びる両側縁部1dとを有する。両側縁部1dは、股下域21において横方向内方へ向かって弧を描いている。おむつ1Aでは、トップシート2が肌当接面1aを画成し、ベースシート3が肌非当接面1bを画成している。

【0016】

肌接触シート5は、横方向へ互いに離間対向して両側縁部1dを前後方向へ延びる一対の帯片から形成されている。肌接触シート5は、前後方向と横方向とへ弾性伸縮性を有する繊維不織布であり、前後方向へ伸長させた状態で肌当接面1aに取り付けられている。肌接触シート5は、両端縁部1cに固着された固定面域5aと、固定面域5aの間に位置しておむつ1Aに非固着の自由面域5bとを有し、自由面域5bがトップシート2を挟んでパネル4の両側縁4b近傍を間欠的に被覆している。

【0017】

肌接触シート5は、おむつ1Aがトップシート2を内側にして前後方向へ湾曲したときに、その張力によって自由面域5bがパネル4の上方へ遊離可能である。それら肌接触シート5の間には、トップシート2の一部が露出している。

【0018】

防漏カフ6は、トップシート2と肌接触シート5との間に介在し、横方向へ互いに離間対向して両側縁部1dを前後方向へ延びている。防漏カフ6は、両側縁部1dに固着された固定縁部6aと、トップシート2の上方へ起立可能な自由側部6bと、おむつ1Aの横方向内方へ倒伏された状態で両端縁部1cに固着された固定両端部6cとを有する。防漏カフ6では、固定側部6aから横方向外方へ

外側部 6 d が延びている。

【 0 0 1 9 】

固定縁部 6 a は、パネル 4 の両側縁 4 b の外側近傍を前後方向へ延びている。
自由側部 6 b は、固定縁部 6 a と並行して前後方向へ延びている。自由縁部 6 b
には、前後方向へ延びるカフ用弾性部材 7 が伸長下に固着されている。カフ用弾
性部材 7 は、自由縁部 6 b の一部に被覆されている。

【 0 0 2 0 】

両端縁部 1 c には、横方向へ延びる帯状の胴周り用弾性部材 8 が伸長下に取り
付けられている。両端縁部 1 d には、前後方向へ延びる複数条の脚周り用弾性部
材 9 が伸長下に取り付けられている。

【 0 0 2 1 】

後胴周り域 2 2 の両側縁部 1 d には、横方向内方へ延びるテープファスナ 1 0
が取り付けられている。テープファスナ 1 0 の基端部は、ベースシート 3 と防漏
カフ 6 の外側部 6 d との間に介在し、それらに固着されている。テープファスナ
1 0 の自由端部には、粘着剤（図示せず）が塗布されている。前胴周り域 2 0 の
肌非当接面 1 b には、プラスチックフィルムからなる矩形のターゲットテープ 1
1（図 2 参照）が取り付けられている。ターゲットテープ 1 1 は、テープファス
ナ 1 0 に対する止着域となる。

【 0 0 2 2 】

おむつ 1 A を着用するには、後胴周り域 2 2 の両側縁部 1 d を前胴周り域 2 0
の両側縁部 1 d の外側に重ね合わせ、粘着剤を介してテープファスナ 1 0 の自由
端部をターゲットテープ 1 1 に止着し、前胴周り域 2 0 と後胴周り域 2 2 とを連
結する。

【 0 0 2 3 】

前後胴周り域 2 0, 2 2 が連結されたおむつ 1 A には、図 2 に示すように、胴
周り開口 1 2 と一對の脚周り開口 1 3 とが画成されている。おむつ 1 A では、そ
れがトップシート 2 を内側にして前後方向へ湾曲し、カフ用弾性部材 7 が収縮し
て防漏カフ 6 の自由縁部 6 b がトップシート 2 の上方へ起立し、肌接触シート 5
の自由面域 5 b が防漏カフ 6 の自由縁部 6 b の上方へ遊離している。

【 0 0 2 4 】

おむつ 1 A の着用時では、自由縁部 6 b の上方へ遊離した肌接触シート 5 の自由面域 5 b が着用者の股間部に密着するので、おむつ 1 A の着用中に着用者の動作によっておむつ 1 A が動いたとしても、肌接触シート 5 が着用者の股間部からずれてしまうことはない。おむつ 1 A では、着用者の肌とトップシート 2 との間に肌接触シート 5 が介在するので、トップシート 2 上に残留する尿や軟便の着用者の肌への付着が肌接触シート 5 によって阻止される。

【 0 0 2 5 】

肌接触シート 5 は、不透液性の繊維不織布から形成されているので、トップシート 2 と肌接触シート 5 とが接触したとしても、トップシート 2 上に残留する尿や軟便が肌接触シート 5 を透過して着用者の肌に付着することはない。

【 0 0 2 6 】

おむつ 1 A では、トップシート 2 上を拡散する尿や軟便がおむつ 1 A の両側縁部 1 d に到達したとしても、トップシート 2 の上方へ起立する防漏カフ 6 の自由縁部 6 b がそれら排泄物に対する障壁を形成するので、両側縁部 1 d からのそれら排泄物の漏れを防ぐことができる。

【 0 0 2 7 】

おむつ 1 A では、肌接触シート 5 の自由面域 5 b が防漏カフ 6 の自由縁部 6 b の上方へ遊離するので、自由面域 5 b が自由縁部 6 b をその上方から押し潰してしまうことがなく、自由縁部 6 b が障壁として十分に機能することができる。

【 0 0 2 8 】

おむつ 1 A の両端縁部 1 c では、図 3 に示すように、トップシート 2 の端部 2 a とベースシート 3 の端部 3 a とがコア 4 の端縁 4 a から前後方向外方へ延び、それら端部 2 a, 3 a が互いに重なり合った状態で固着されている。防漏カフ 6 の固定両端部 6 c は、トップシート 2 の端部 2 a に固着されている。肌接触シート 5 の固定面域 5 a は、トップシート 2 の端部 2 a と防漏カフ 6 の固定両端部 6 c とに固着されている。胴周り用弾性部材 8 は、端部 2 a と端部 3 a との間に介在し、それら端部 2 a, 3 a に固着されている。

【 0 0 2 9 】

おむつ 1 A の両側縁部 1 d では、図 4 に示すように、トップシート 2 の側部 2 b がコア 4 の両側縁 4 b から横方向外方へわずかに延び、トップシート 2 の側部 2 b からさらに横方向外方へベースシート 3 の側部 3 b と防漏カフ 6 の外側部 6 d とが延びている。側部 2 b は、側部 3 b と外側部 6 d との間に介在し、それらに固着されている。側部 3 b と外側部 6 d とは、それらが互いに重なり合った状態で固着されている。防漏カフ 6 の固定縁部 6 a は、トップシート 2 の側部 2 b に固着されている。脚周り用弾性部材 9 は、ベースシート 3 の側部 3 b と防漏カフ 6 の外側部 6 d との間に介在し、それらに固着されている。

【0030】

図 5, 6 は、他の実施の形態を示すおむつ 1 B の部分破断斜視図と、前後胴周り域 20, 22 を連結した着用状態で示すおむつ 1 B の部分破断斜視図とであり、図 7, 8 は、図 5 の A-A 線断面図と、図 5 の B-B 線端面図とである。図 5 では、前後方向を矢印 Y で示し、横方向を矢印 X で示す。図 5 のおむつ 1 B が図 1 のそれと異なる点は、以下のとおりである。

【0031】

このおむつ 1 B の肌接触シート 5 は、前後方向へ長い略矩形を呈する非伸縮性繊維不織布から形成されている。肌接触シート 5 の両側縁部 5 c には、前後方向へ延びる弾性部材 16 が伸長状態で取り付けられ、肌接触シート 5 に前後方向への伸縮性が付与されている。弾性部材 16 は、両側縁部 5 c の一部に被覆されている。

【0032】

肌接触シート 5 は、前後方向へ伸長させた状態で肌当接面 1 a に取り付けられている。肌接触シート 5 は、両端縁部 1 c に固着された固定面域 5 a と、固定面域 5 a の間に位置しておむつ 1 B に非固着の自由面域 5 b とを有し、自由面域 5 b がトップシート 2 を挟んでパネル 4 の略全域を間接的に被覆している。

【0033】

肌接触シート 5 の自由面域 5 b には、前胴周り域 20 に開口する開口部 14 と後胴周り域 22 に開口する開口部 15 とが画成されている。開口部 14, 15 では、トップシート 2 の一部が露出している。

【0034】

肌接触シート5は、図1のそれと同様に、おむつ1Bがトップシート2を内側にして前後方向へ湾曲したときに、弾性部材16の張力によってその自由面域5bがパネル4の上方へ遊離可能である。

【0035】

おむつ1Bの着用時では、図6に示すように、防漏カフ6の自由縁部6bがカフ用弾性部材7の収縮によってトップシート2の上方へ起立し、肌接触シート5の自由面域5bが防漏カフ6の自由縁部6bの上方へ遊離している。おむつ1Bでは、その着用時に、肌接触シート5の開口部14が着用者の泌尿器に位置し、開口部15が着用者の肛門に位置する。

【0036】

このおむつ1Bでは、肌接触シート5が着用者の股間部に広範囲に密着してずれ難く、一对の帯片からなる図1のそれと比較し、肌接触シート5を着用者の股間部に安定して密着させることができるので、トップシート2上に残留する尿や軟便の着用者の肌への付着防止を向上させることができる。このおむつ1Bでは、トップシート2の上方へ起立する防漏カフ6の自由縁部6bが障壁となるので、図1のそれと同様に、尿や軟便がおむつ1Bの両側縁部1dから漏れてしまうことがない。

【0037】

図1の肌接触シート5には、メルトブローンやスパンボンドの各製法により製造された弾性伸縮性の疎水性繊維不織布を使用することができる。弾性伸縮性不織布の構成繊維としては、熱可塑性エラストマー樹脂を溶融、紡糸した伸縮性繊維を使用することができる。また、弾性伸縮性の繊維不織布としては、熱可塑性エラストマー樹脂繊維からなる疎水性繊維不織布の少なくとも片面に、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、のいずれかの熱可塑性合成樹脂を溶融、紡糸した撓縮繊維からなる疎水性繊維不織布を貼り合わせた複合不織布を使用することもできる。

【0038】

トップシート2には、親水性繊維不織布、または、微細な多数の開孔を有する

プラスチックフィルムを使用することができる。ベースシート3には、疎水性繊維不織布、不透液性のプラスチックフィルム、疎水性繊維不織布を重ね合わせた2層の不織布、疎水性繊維不織布にプラスチックフィルムをラミネートした複合シートのいずれかを使用することができる。図6の肌接触シート5や防漏カフ6には、疎水性繊維不織布を使用することができる。

【0039】

また、ベースシート3や図6の肌接触シート5、防漏カフ6には、高い耐水性を有するメルトブローン法による繊維不織布を、高い強度を有しかつ柔軟性に富んだスパンボンド法による繊維不織布で挟んだ複合不織布を使用することもできる。

【0040】

トップシート2やベースシート3、図6の肌接触シート5、防漏カフ6を形成する不織布としては、スパンレース、ニードルパンチ、メルトブローン、サーマルボンド、スパンボンド、ケミカルボンド、エアースルー、の各製法により製造されたものを使用することができる。不織布の構成繊維としては、ポリオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系、の各繊維、ポリエチレン/ポリプロピレン、または、ポリエチレン/ポリエステルからなる芯鞘型複合繊維またはサイドバイサイド型複合繊維を使用することができる。

【0041】

コア4は、フラッフパルプと高吸収性ポリマー粒子との混合物、または、フラッフパルプと高吸収性ポリマー粒子と熱可塑性合成樹脂繊維との混合物であり、所要の厚みに圧縮されている。高吸収性ポリマーとしては、デンプン系、セルロース系、合成ポリマー系のものを使用することができる。

【0042】

おむつ1A、1Bでは、ベースシート3に吸液性パネル4が取り付けられていればよく、トップシート2は必ずしも必要ではない。この場合、パネル4としては、圧縮復元弾性を有する繊維ウェブの繊維間隙に高吸収性ポリマー粒子を分散、保持させ、繊維ウェブを所要の厚みに圧縮して形態安定性を付与したものを使用することが好ましい。繊維ウェブの構成繊維としては、ポリプロピレンやポリ

エチレン等のポリオレフィン系繊維、ポリエチレンテレフタレートやポリブチレンテレフタレート等のポリエステル系繊維、ナイロン 6 6 やナイロン 6 等のポリアミド系繊維、アクリル系繊維、パルプやレーヨン、アセテート等のセルロース系繊維のうちのいずれかを使用することができる。

【 0 0 4 3 】

トップシート 2 とベースシート 3 との固着、肌接触シート 5 や防漏カフ 6 の固着、コア 4 の接合、弾性部材 7, 8, 9, 1 6 の取り付けには、ホットメルト型接着剤、または、ヒートシールやソニックシール等の熱による溶着手段を使用することができる。

【 0 0 4 4 】

この発明は、開放型のおむつの他に、前後胴周り域があらかじめ連結されたパンツ型のおむつにも実施することができる。

【 0 0 4 5 】

【発明の効果】

本発明にかかる使い捨て着用物品によれば、物品が肌当接面を内側にして前後方向へ湾曲したときに、肌接触シートの張力によってその自由面域が吸液性パネルの上方へ遊離する。物品の着用時では、肌接触シートの自由面域が着用者の股間部に密着するので、物品の着用中に着用者の動作によって物品が動いたとしても、肌接触シートが着用者の股間部からずれてしまうことはない。物品では、着用者の肌と物品の肌当接面との間に実質的に不透液性の肌接触シートが介在するので、肌当接面上に残留する尿や軟便の着用者の肌への付着を防ぐことができる。また、物品では、肌接触シートと肌当接面とが接触したとしても、肌当接面上に残留するそれら排泄物が肌接触シートを透過して着用者の肌に付着することはない。

【 0 0 4 6 】

両側縁部を前後方向へ延びる防漏カフを取り付けた物品では、その着用時にカフ用弾性部材が収縮して防漏カフの自由縁部が肌当接面の上方へ起立し、尿や軟便に対する障壁を形成するので、肌当接面上を拡散するそれら排泄物が物品の両側縁部に到達したとしても、両側縁部からそれら排泄物が漏れてしまうことはな

い。防漏カフを取り付けた物品では、肌接触シートの自由面域が防漏カフの自由縁部の上方へ遊離するので、自由面域が自由縁部をその上方から押し潰してしまふことがなく、自由縁部が障壁として十分に機能することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

肌当接面の側から示すおむつの部分破断斜視図。

【図 2】

前後胴周り域を連結した着用状態で示すおむつの部分破断斜視図。

【図 3】

図 1 の A - A 線断面図。

【図 4】

図 1 の B - B 線端面図。

【図 5】

他の実施の形態を示すおむつの部分破断斜視図。

【図 6】

前後胴周り域を連結した着用状態で示すおむつの部分破断斜視図。

【図 7】

図 5 の C - C 線断面図。

【図 8】

図 5 の D - D 線端面図。

【符号の説明】

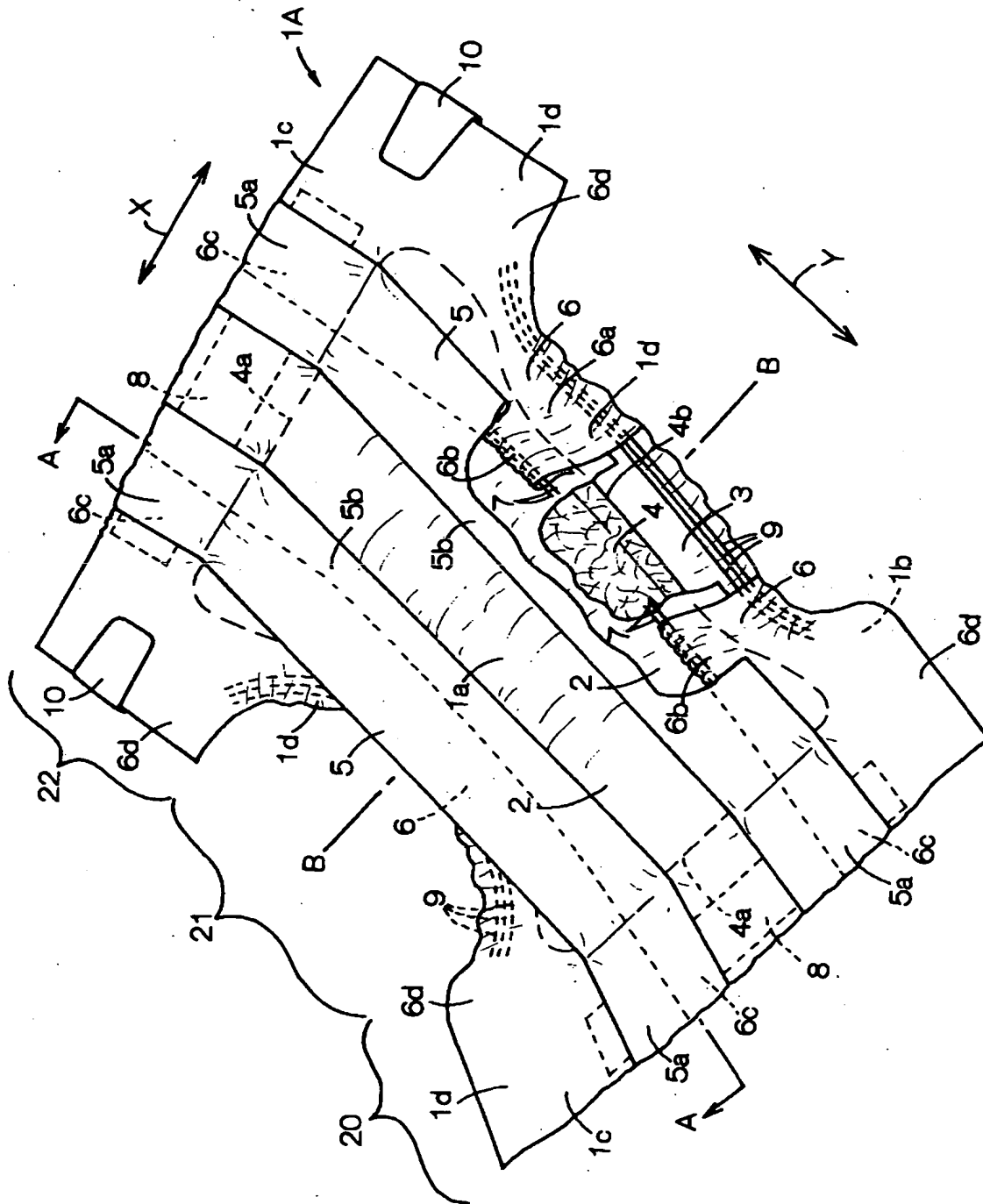
- | | |
|----------|-------------------|
| 1 A, 1 B | 使い捨ておむつ（使い捨て着用物品） |
| 1 a | 肌当接面 |
| 1 b | 肌非当接面 |
| 1 c | 両端縁部 |
| 1 d | 両側縁部 |
| 3 | 不透液性ベースシート |
| 4 | 吸液性パネル |
| 5 | 肌接触シート |

5 a	固定面域
5 b	自由面域
6	防漏カフ
6 a	固定縁部
6 b	自由縁部
6 c	固定両端部
1 6	弾性部材

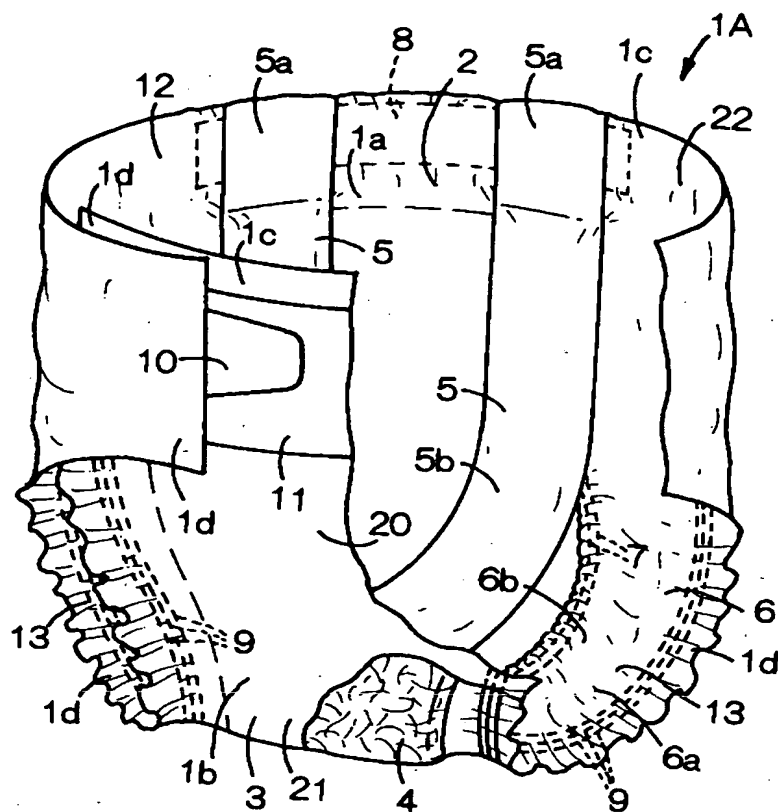
【書類名】

図面

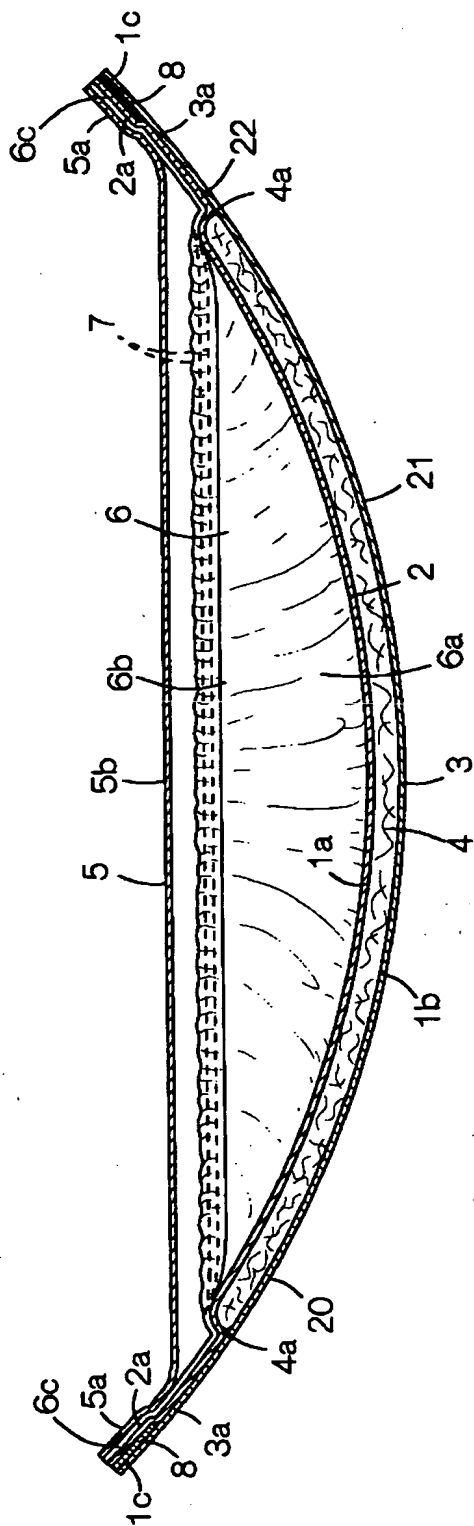
【図 1】



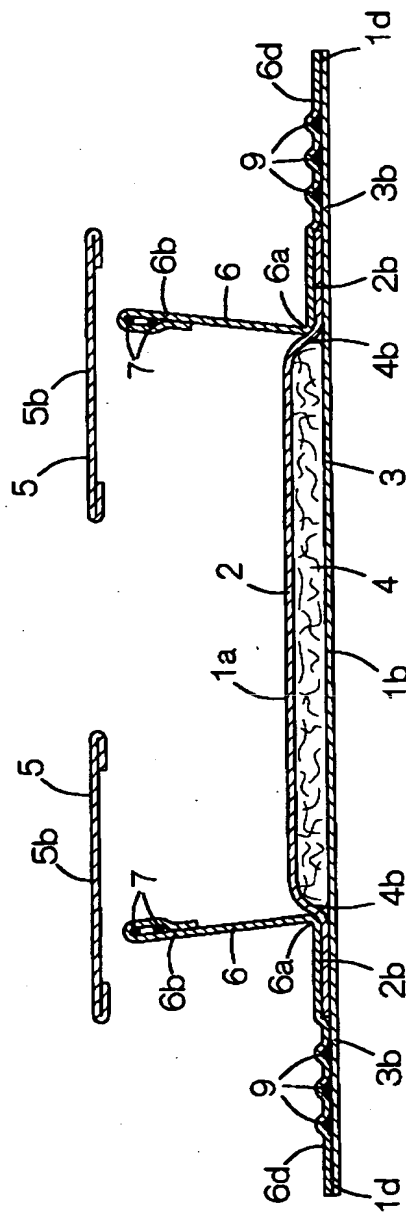
【図 2】



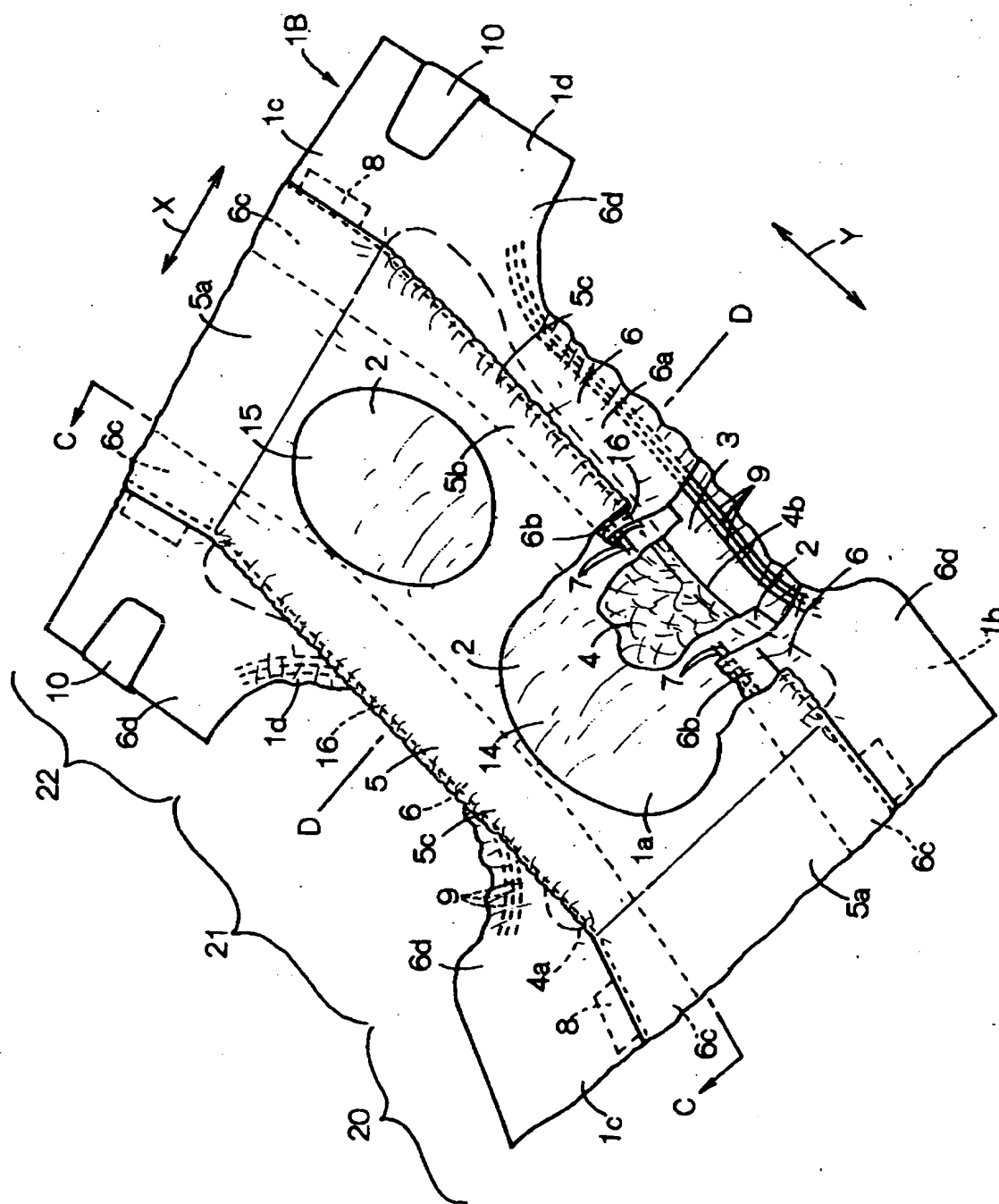
【図 3】



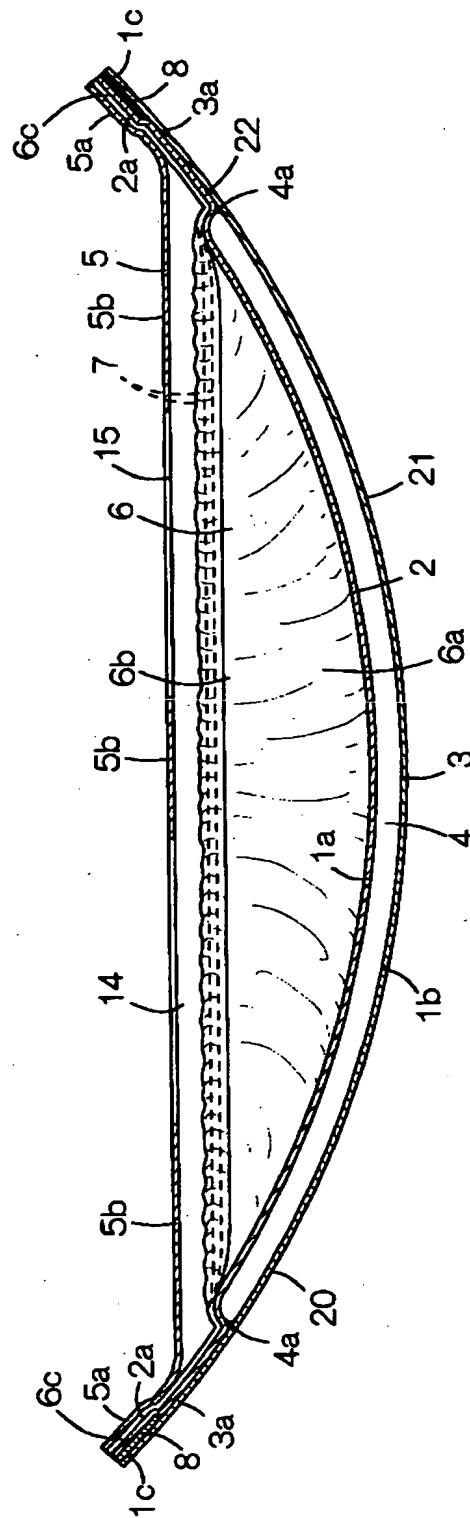
【図4】



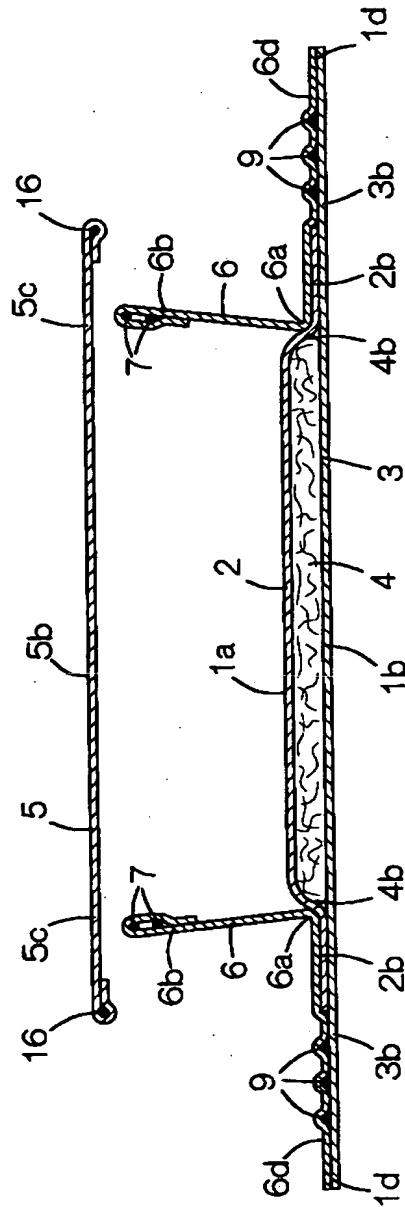
【図 5】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 肌接触シートによって肌当接面に残留する尿や軟便の着用者の肌への付着を防ぐことができる使い捨て着用物品を提供する。

【解決手段】 物品 1 A では、横方向へ互いに離間対向して両側縁部 1 d を前後方向へ延びる一対の帯片からなる不透液性の肌接触シート 5 が物品 1 a の肌当接面に伸長状態で取り付けられてパネル 4 を被覆し、肌接触シート 5 が両端縁部 1 c に固着された固定面域 5 a とパネル 4 の上方へ遊離可能な自由面域 5 b とを有し、それら肌接触シート 5 の間にパネル 4 を含む肌当接面 1 a が露出している。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000115108]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	愛媛県川之江市金生町下分182番地
氏 名	ユニ・チャーム株式会社